日本聖公会婦人会　　2019年2月20日

ニュースレター　　NO.６９

〒362-0003　埼玉県上尾市菅谷４－８４　斉藤方
TEL048-717-2529　FAX048-717-2529

「 二、三人が集まるところに 」 ―ランソン会長の思い―

日本聖公会婦人会 担当主教　主教　ゼルバベル　広田 勝一

新たな年を迎えました。北関東教区が会長選出教区に選ばれ、早くも３年経とうとしています。６月の総会も近づきつつあり、その準備の時期となるかと思います。

昨年北関東教区婦人会文書部発行の『いずみ』に「ランソン会長の思い」と題して一文を記しました。ランソン女執事は米国聖公会の宣教師として来日以来、川越での伝道を皮切りに、北東京地方部で様々な働きを担われました。北東京地方部婦人伝道補助会は、創立以来マキム主教夫人が会長として会の結束を図り、９５年前の東京教区成立後の翌年、１９２４年に新たにされた組織では、当初立教女学院のミス・へーウッド宣教師が会長の任を担いました。その後、ランソン女執事が、会長として同会を率いていくことになります。９２年前の１９２７（昭和２）年５月に発行された『基督教週報』には、５月１１日、川越基督教会で開催された総会でのランソン会長の挨拶、「**婦人伝道補助の理想**」が掲載され、会長として補助会の発展に尽くそうという熱意が余すところなく伝わってきます。

可能な限り多くの支部（教会）を訪問して会員皆と親しくなりたいという希望と共に、「次に、希望して居りました事はこの地方部には、補助会のない教会のない様にしたいということであります。即ち信者の婦人が幾人かいらっしゃる所には何處でも新たな支部を設けたいという事であります。」と語ります。さらに「尤も、ご注意申しておきたいことは、補助会を設けるには、必ずしも多数を要しないことで、主キリストは『二三人我が名によりて集まる所には我も其の中に在るなり』という約束を給うたのでありますから、僅かの人数であっても、楽しい集会をして、互に助け合うことはできるのであります」。

この言葉は、私たちにとって、婦人会会員数の減少を憂い嘆くのではなく、各教会で、少ない人数でも、共に集えることへの感謝と喜びを大切するようにとの招きの言葉のように響きます。今日も教会の婦人会の存続そのものが危ぶまれています。そんな中、９２年前のランソンさんの基本姿勢には学ぶものが多いと思います。

婦人会の歩みが、これからも、祈りと感謝をもって、喜びをもって、共に、主に小さなものをささげつつ、歩んでいきたいと願います。

ご　挨　拶

日本聖公会婦人会 会長　マリヤ　　斉藤 道子

✞ 主の平和がありますように

皆さまにおかれましては、新しい年を迎えられお元気にお過ごしのことと存じます。度重なる災害を乗り越えての新年となりました。これからの一年が、全ての人々にとりまして平安な恵み多い年となりますようにお祈り申し上げます。

皆さまのお祈りとお支えを頂き担って参りました役員会は、いよいよ３年目を迎えました。残す半年の任期の中で、今期承った大きな課題を精査して来たる第 26（定期）総会に臨みたいと準備をすすめております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年は、「女性の司祭按手 20 年感謝プログラム」が開かれ、12 月 1 日の感謝礼拝・交流会に役員３名が出席いたしました。女性の司祭按手を悲願とし、婦人補助会の時代より被献日の信施を被献日献金として婦人献身者養成のために支援を繋げて参りました日本聖公会婦人会にとりましても、大きな喜びの時となりました。会場は女性教役者の赤いストールが凛々しく、温かさに溢れておりました。

また、今年の被献日（日本聖公会婦人会の創立記念日）の礼拝では、「九州教区女性の会 閉会/感謝礼拝」をお覚えいただきお祈りいただいたことと存じます。日本聖公会婦人会と共に多くの過度期を経てご奉仕をいただきました九州教区女性の会の閉会は、苦渋の決断と受け止め寂しく残念な事です。これまでご一緒にお働きいただきました事に深く感謝申し上げます。神さまのお導きをいただき、九州教区の皆さまが新たな一歩を歩まれますように、心よりお祈り申し上げます。

この一年に、次の聖職の皆さまが按手されました。北海道教区で阿部恵子執事、上平更執事、北関東教区で平岡康弘司祭、福田弘二執事、東京教区で高橋宏幸主教、横浜教区で入江修主教、窪田真人司祭、吉田仁志司祭、中部教区で大和孝明執事、大和玲子執事、京都教区で鈴木恵一司祭、麓敦子司祭、松山健作執事、柳原健之執事、九州教区で塚本祐子執事、沖縄教区で上原成和執事の皆さまに、日本聖公会婦人会として皆さまからの喜びとお祝いのお気持ちを届けて参りました。これからの尊いお働きをお祈り申し上げます。

第１回、第２回会長会での分かち合いを経て、どちらの教会も高齢化の中ご苦労が多いことを共有いたしました。だからこそ、繋がり支え合う事が行く道を開く事と信じて、祈り、寄り添い、共に歩む日聖婦でありたいと思います。改めて教区婦人会の皆さまの日々のお働きとお祈りに感謝いたしまして、引き続きご協力をお願い申し上げます。

残す日々も神さまのみ心に適う働きができますようにと祈りつつ歩んで参ります。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

【 被献日献金活用実施報告 】

毎年、全国よりお献げいただく被献日献金は、各教区婦人会・女性の会の活動、神学生・聖職候補生の学びのための補助として用いられているほかに、関連団体への活動支援などに献げられています。
今号では聖公会神学院（東京・用賀）とウィリアムス神学館（京都）に学ぶ神学生からの報告、聖職候補生からの報告、中部教区婦人会の各伝道区での学び、北海道教区婦人会の４分区会開催の様子、大阪教区の修養会の報告をお届けいたします。２０１９年の申請が始まります。今年は昨年６月の「日本聖公会第 25（定期）総会後第２回会長会」でご承認をいただいた若干の改定がございます。ピンク色の表紙『被献日献金活用申請』、その他申請書類をお読みいただき申請ください。

《 神学生枠 》

ウイリアムス神学館　３年

みやた　ゆうぞう
ルカ　宮田　裕 三（神戸教区）

「歴史と文学」という神学
神学校で神学を学ぶということは、毎日毎日聖書を学ぶものだと考えていました。３年のあいだ、しっかりと聖書を身につけて卒業するものだと。しかし、授業の多くは歴史と文学でした。わかる人には「何を今さら、当たり前でしょう」と言われますし、そうでない人は「えっ、聖書をしっかりと理解するんじゃないの」と驚かれます。繰り返しますが、授業の多くは歴史と文学でした。旧約の時代から今に至るまで、哲学の祖から現在の哲学まで、旧約の時代・キリストの時代の礼拝方法から現在の礼拝方法まで、宣教の歴史、日本のキリスト教の歴史、教理の歴史、旧約新約聖書の成り立ちから、聖書の構成・理解。どれもこれも歴史と文学の学びでした。これらを全体的に網羅的に理解することによって、一つ一つの小さな事柄へのアクセス方法をしっかりと学んでいるのだと思います。神学校で学ぶことは、すべてを知ることではなく、一つ一つの事柄にたどり着けるためのインデックスを身につけているのだと考え、俯瞰的に学んで行きたいと思います。お支えいただき心より感謝いたします。
フストゴンザレス・キリスト教史上下
宣教のパラダイム転換上下　ほか。

聖公会神学院　３年

おぎわら　みつる
ヤコブ　荻 原　充　（東京教区）

本年度も被献日の礼拝でお献げいただいた献金を、学びに必要な書籍の購入に活用させていただきまして有難うございました。こうして活用報告を書かせていただくことで、改めて日本聖公会婦人会の皆様にお支えいただいて今の学びがあるということを胸に刻むことができますことに感謝したいと思います。
今回は、『ボンヘッファー説教全集』、秦剛平訳『七十人訳ギリシャ語聖書』、『総説キリスト教史１〜３』、N.T ライト『新約聖書と神の民』などを購入させていただきました。３年次には説教学の授業があり、み言葉を伝える者としての役割と責任について日々考えさせられています。ボンヘッファーは、「説教の言葉は、受肉したもうたキリストご自身である」といいます。果たして人間であるわたしの言葉がキリストご自身になりえるのかと、不安にかられます。しかしながら、キリストが人間の肉体を取り給うたことを考えるならば、弱い限界のあるわたしを神がよしとなされることに信頼しながらみ言葉を語る。すべてを語りえないという限界を引き受けた上で、誠実に聖書に向かい、自分に与えられている語るべき言葉を聖書から聴くことを地道に行っていくことが求められているのではないか、と今は考えております。

聖公会神学院　２年

ヨハネ　相原（あいはら）　太郎（たろう）（中部教区）

９０年以上に前に始められた被献日献金が、今日に至るまで日本聖公会に連なる人たちの学びのために用いられ、その貴重な学びのつながりの中に加えていただけることに感謝しております。

昨年の被献日献金においては、主に神学院で使用する教科書類の購入に用いさせていただきましたが、今年は、主に神学院を修了して以降も使用する辞書類等の購入のために活用させていただきました。購入した書籍は以下のとおりです。

E.A.リヴィングストン（編）『オックスフォード　キリスト教辞典』、A.ベルレユング／C.フレーフェル（編）『旧約新約 聖書神学事典』、織田昭（編）『新約聖書ギリシア語小辞典』、D.ボンヘッファー『説教と牧会』、加藤常昭『説教への道: 牧師と信徒のための説教学』、鈴木範久『日本キリスト教史 -年表で読む-』、五野井隆史『日本キリスト教史』、本田哲郎『小さくされた人の福音』『パウロの書簡』。

特に、出版されたばかりの『キリスト教辞典』と『聖書神学事典』は大変高価なものですが、最新の情報・研究成果がふんだんに盛り込まれており、大いに重宝しております。

被献日献金をお献げくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

聖公会神学院　２年

マグダラのマリヤ　島（しま）　優子（ゆうこ）（九州教区）

神学院での２年目の学びは、一つひとつの授業の奥深さが増し、また各科目間の繋がりが鮮明に見えてくるようになりました。初年度は与えられた課題を無我夢中でこなすのみでしたが、今は厳しさと共に、学ぶ喜びも少しだけ見出せるようになりました。

その学びに欠かせない書籍を、今回も貴い被献日献金から購入させていただきました。ギリシア語新約聖書および授業で使用するテキスト４冊は、すぐに毎週不可欠なものとなり、『オックスフォードキリスト教辞典』は様々な調べ物の際、この先長く重宝する一冊となります。

これらの本を手に取る時、献金をお捧げ下さった皆さまへの感謝を決して忘れることなく、得られた知識を土台として、人々へみ言葉と福音を伝えていく者となれるよう、努力を続けてまいります。ご支援に心より感謝申し上げます。

聖公会神学院　２年

ウィリアムズ　藤田（ふじた）　誠（まこと）（東京教区）

昨年に引き続き、被献日献金活用申請ご承認頂きましたこと、感謝申し上げます。今年度も授業で使用するテキストを中心に申請させて頂きました。『羅和辞典改訂版』研究社、鈴木範久『日本キリスト教史―年表で読む―』、五野井隆史『日本キリスト教史』、李省展『アメリカ人宣教師と朝鮮の近代』、D.ボンヘッファー『説教と牧会』、加藤常昭『説教への道』、W.ウィリモン『牧会としての礼拝』、W.Pannenberg『Systematic Theology,vol1-3』などです。

今年の神学院総合ゼミでは「日本のキリスト教史」がテーマなのですが、購入させて頂いた書籍を通して宣教と教会形成の課題を学ぶことができました。１６世紀におけるイエズス会宣教師による宣教、開国以降プロテスタント宣教師も含めた宣教、その後の日本人を中心とした教会形成を見るとき、宣教師や聖職者の隣で務めを果たす信徒一人一人が見えてきます。そして、それは大きな働きになり隣人を励ましていたことを知りました。

日本聖公会婦人会の皆様お一人お一人の働きもまた、さまざまな隣人を励ましていることを感じます。

ありがとうございました。

聖公会神学院　２年

ヒルダ　藤田（ふじた）　美土里（みどり）（東京教区）

「全国の婦人会の皆さまに感謝を込めて」

昨年に引き続き、今年度も被献日献金のお支えにより、神学校での学びに必要な本を購入致しました。ありがとうございました。今神学院での学びの中で、聖公会の歴史を身近に感じております。その歩みの最初期から女性の働きが教会の働きに欠かせないものであったことを改めて学んでおります。婦人会のそして「婦人会」の皆さまのシスターフットの働きが、多くの支えとなっていることを痛感しております。女性たちは、その小さな力を一つ一つ集めて大きな力に、包み込むような癒しの力に、しなやかな網のように張り巡らし、セーフティネットに、その働きは様々な場で形を変えて発揮されています。今年は、女性司祭按手20周年を記念する礼拝が、12月１日東京の聖アンデレ教会で行われました。この記念すべき、恵みの時にその歩みの上にこの支えがあったことを覚え感謝いたします。

ウイリアムス神学館　２年

ウリエル 仲宗根（なかそね）　遼　祐（りょうすけ）（沖縄教区）

この度は「被献日献金の図書贈呈」で図書を買うための図書代を贈呈していただき、ありがとうございます。贈呈していただいた図書代では『旧新約聖書神学事典』を買い、普段から神学校での勉強に役立てています。神学校で勉強していく中で、分からない事があればこの事典をすぐに開いて調べることが出来るようになり、勉強も捗るようになりました。学ぶことが多い神学校の勉強では普段から目を通しているはずの聖書でも、その時代背景や歴史、それまで培われてきた聖書神学について初めて知る事も沢山あり、この事典のおかげで初めて知った事に対しても楽しく、今まで学んでいた事に対しても深く学びを行えるようになりました。

またこの機会を通して私自身が多くの人に支えられ、神学校で学ばせてもらっていると言う事を改めて実感しました。本当にありがとうございます。

聖公会神学院　１年

エリサベト 三浦（みうら）　千晴（ちはる）（北海道教区）

主の平和がありますように

今年聖公会神学院に入学致しました、三浦千晴でございます。

いつもお祈り、またご支援いただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

この度は、日本聖公会婦人会の皆様の尊きお捧げものである被献日献金により、授業で使う２冊の教科書と１冊の参考文献を購入させていただきました。次にその名称と内容をご紹介いたします。

＜教科書＞

１『日本キリスト教史』五野井隆史 著

毎週木曜日の２講目の「総合ゼミ」の時間の教科書です。日本にキリスト教が伝来してから今日に至るまでの歴史をこの本を用いて学びました。とてもわかりやすい本であったと思います。

２『神学のよろこび』 A.E.マクグラス 著

毎週水曜日１講目の「一年次基礎文献」の教科書です。副題に「はじめての人のためのキリスト教ガイド」とあるように、神学史の主要な論争や専門用語解説を網羅した神学テキストでした。決して解りやすい訳ではない神学の基礎を学ぶために、とても適した本であったと思います。

＜参考文献＞

『英国聖公会宣教協会の日本伝道と函館アイヌ学校』田辺陽子 編著　西口忠 著
フィリップ・ビリングズリー

私の出身教区である北海道教区にも深く関わる貴重な本で、写真が多く用いられておりますので、大変興味深く読ませていただきました。編者の田辺陽子さんとも、北海道教区文書庫でお会いしたこともあり、教区の初期宣教の活動を知る上でも大変勉強になりました。

以上簡単ではありますが、ご報告とさせていただきます。主に感謝いたします。

《 聖職候補生枠 》

ヒューム　ウィリアム　ユーワン
聖職候補生　Hume William Ewan（大阪教区）

主の平和。2018 年 3 月、ウィリアムス神学館を卒業して、大阪教区で働くことになりました、ヒューム　ウィリアム　ユーワンと申します（名字はヒュームです）。この度、被献日献金を利用して、書籍を３冊購入することが出来ました。どうも有り難うございました。全て英語版の聖書の注解書です。その三冊は World Bible Commentary（世界の聖書注解書）のシリーズのマタイによる福音書とルカによる福音書及びヨハネによる黙示録という注解書です。世界の聖書注解書は英語版のみが出版されています。

ウィリアムス神学館で、私は聖書学、特に釈義に興味を持つようになりました。つまり、聖書のテキストをどのように解釈するかということではなく、聖書のテキストにはどのような意味があるかということです。私にとって、それはとても面白いことですが、難しくもあります。釈義をするために、ギリシア語やヘブライ語の知識は必要ですが、注解書も必要です。けれども、注解書に関しては、色々な種類があります。牧師のため、信仰的、専門的及び専門に研究した注解書ということです。世界の聖書注解書は専門的な注解書ですので、釈義するためには適切な注解書です。

キリスト教にとって、一番重要な文書は新約聖書で、27 巻で構成されています。しかし、その 27 巻とは同じ作者によって書かれたものではなく、同じ時期や場所で製作されたものもありません。また、執筆者の背景（歴史的・社会的）などは聖書の文書を理解するためにとても重要です。

大阪教区では、私は教会の中で働いているだけではなく、教育機関でアシスタントチャプレンとして働いています。ですから、聖書について聞いたことがない学生たちや聖書を少し分かっている学生たちに対して、私は学生たちに聖書の素晴らしさを紹介する機会が沢山あります。

申請させて頂いた書籍を全冊購入することができ、日本聖公会婦人会の皆様には深く感謝しております。本当に有り難うございました。

つかもと　ゆうこ
執事　セシリア　塚本　祐子（九州教区）

主の御名を賛美致します。

昨年３月ウイリアムス神学館を卒業、今年７月執事按手の恵みに与り、福岡聖パウロ教会牧師補として勤めさせていただいております。按手の折にはお祈りとお祝いを賜りましたことこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

神学館を離れるに際し心配だったのは、参考文献が容易に閲覧できなくなる事でした。特に詩編に関しては図書室の NIB に頼っていた為手元にそれに代わる文献をと思っていました。幸いに International Critical Commentary Psalms が見つかり、御蔭様で一巻だけでも入手できました。詩編は毎日、毎主日用います。時には聖書日課の箇所と共鳴し、福音書の意味を補い豊かにする働きがあり、比較的簡潔な英文での釈義は説教作成の上でかなり心強い味方になります。又、早晩祷の折にふと心に残った句を検めるときにも助けられております。恵みにより許された牧会の道、婦人会の皆様のお祈りとお働きに感謝し、神と人に仕える事を喜びとしながら歩んで参ります。

《 教区婦人会枠 》

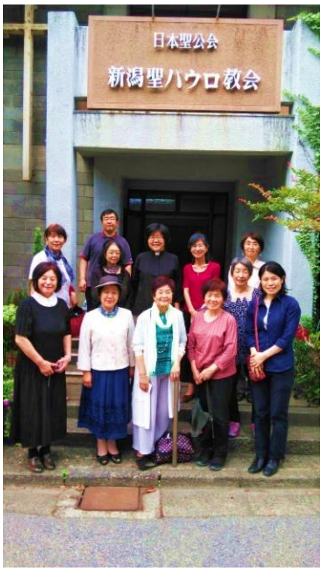
中部教区婦人会

＊愛岐伝道区　婦人親睦会「ゴスペルを賛美しよう！」

4 月 7 日（土）に愛岐伝道区婦人親睦会が開催されました。この日は復活後土曜日の聖餐式に与り、その後昼食、各教会の報告、そして、国友淑弘先生のご指導でゴスペルについての学びと実践を行いました。婦人親睦会の参加者は、教役者 4 名、信徒 40 名でした。この日は“Oh Happy Day”“For brethren to dwell in unity”の２曲を歌いました。参加者 44 名は、準備運動の後、足踏みや手拍子をしながら国友先生の歌声に続いて歌い賛美しました。

＊新潟伝道区　「新潟への旅」

6 月 23 日(土)～24 日(日)、新潟伝道区の企画として、教区内各地の信徒が新潟聖パウロ教会を訪ね、お祈りと親睦を深める、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。



昼の祈りと夕の祈りは、ギターに合わせて、テゼの曲に手話を交えて歌い、お祈りをしました。長岡聖ルカ教会の大雪による被害で、建物の修繕が必要であることも、皆で覚えてお祈りし、集まった信施を長岡聖ルカ教会へ(14,500 円)お捧げしました。

有志の方々によるバーベキューの提案があり、23 日(土)の夕食は、金善姫司祭と丁胤植司祭を含め、20 名の方々が集い、食卓を囲むことが出来ました。

その交わりの中で、参加者より「皆さんの姿を見て、男女問わず働いているのがすごいと思いました」との感想がありました。これは、今の新潟聖パウロ教会を物語る感想でもありました。「中部教区がソウル教区と姉妹関係にあった時、新潟伝道区は役員会を担っていて、韓国の方々との交わりを深めていた」ということも話題に出ました。

新潟の諸教会が、これからどのように婦人会と関わることができるのかについては、考える必要があります。ですが、参加した婦人会役員より、感謝箱献金や被献日献金の意義が語られ、「今後は補助の申請方法も改良していく」ことが提案されました。「聖パウロ祭」を訪ねてくださった方々と、賑やかで楽しく過ごし、久しぶりに会えた方々の元気な姿に、励まされました。　(司祭フィデス金善姫 記)

＊長野伝道区　「女性の集い講演会」

10 月 14 日（日）松本聖十字教会にて、石田雅嗣司祭の司式による合礼拝・聖餐式、愛餐会と、女性の集い講演会が行われました。

当日の朝はストーブを少し焚く程の冷え込んだ気候となりましたが、天候には恵まれました。長野、岡谷、小布施の各教会から、峠を越えて、集まった、35 名の参加者を得て、楽しい集いとなりました。

リニューアルされた礼拝堂での厳かな雰囲気に包まれた聖餐式。それに続く新しくなった保育園棟ホールのマリア館での愛餐会では、豚カツ弁当をいただきながら歓談し、相互の交流を深めました。

愛餐会に続く女性の集い講演会は、米国聖公会の上田亜樹子司祭を講師にお招きして、礼拝堂で行われました。(写真)『女性の活躍の場と教会の宣教について』と題して、ご講演をいただきました。宣教における女性の役割を超えて、キリスト教が大切にする『愛に根ざした生き方』を学びました。周りがどう思うかや、どう評価されるかに振り回されるのではなく、生き方や行動の根源が、愛を基盤としているかどうかを自分に問うことで、『完全な自由』を得て生きることができるということを教

わりました。最後に全員で主の祈りを唱えて閉会しました。
今年の女性の集いは、その講演会で、損か得かではなく、神さまの愛を基準に考えて生きる、新たな軸を与えられました。女性の集いとして企画されながら、ここ数年は、男性の参加者も定着し、女性の集いから、男女の区別なく、奉仕する伝道区の合同礼拝へと変化していることが感じられる集いともなりました。講演会後の歓談では、上田亜樹子司祭が提供する東京のカフェ　エクレシア銀座店をご紹介いただきました。『家族と食べたいごはん』を提供し、生きる喜び命への感謝を分かち合おうとしているという司祭のお言葉が印象的でした。

HP:cafe-ecclesia-ginza.com　（松本聖十字教会　サムエル　藤井正寛（ふじいまさひろ）　記）

北海道教区婦人会

会　長　津川　朋子

２０１８年は４つの分区集会に被献日献金を活用させていただきました。
道南分区は今金教会で行われ、弘前昇天教会からも参加され、室内カーリングなどゲームで盛り上がり、夜は「渡辺淳一著に見る荻野吟子の生涯と聖公会」の学びがありました。
道央分区は札幌聖ミカエル教会に６教会６８名参加し、キリスト教海外医療協力会から助産師としてタンザニアへ派遣される雨宮春子さんのお話を聞きました。
道北分区は旭川聖マルコ教会で、三浦綾子文学館の森下辰衛氏の「三浦綾子文学の魅力」と題した講演がありました。
道東分区は帯広聖公会で、国の重要文化財指定を受けた双葉幼稚園を見学し、幼稚園の歴史と、維持の難しさなどをお聞きしました。
それぞれの当番教会がおもてなしの心を大切に多くの時間をさいて準備され、ミニバザーも盛り上がりました。
婦人会員不足、高齢化をなんとか補いあって、心温まる充実した会を運営して下さったことに心から感謝申し上げると共に、今後も一つ一つの教会の婦人達と心を合わせて歩んでいきたいと思います。

大阪教区婦人会

会　長　山村　小夜子

被献日献金（教区枠）として６万円交付を受け感謝いたします。
大阪教区教区婦人会は毎年１０月１８日（福音記者聖ルカ日）に秋の修養会を開催しております。今年は大阪聖パウロ教会にて行われました。講師には橋本るつ子さん（ちいろば先生で知られている榎本保郎牧師の長女）をお招きして、賛美と証しを通しての講演をお聞きしました。テーマは“弱さを担ってくださる神さま”です。
るつ子さんはオーガニストであり音楽教師としてご活躍され、現在は近江八幡のアシュラムセンタースタッフでおられます。わたしは弱いときにこそ強いからです。と聖書のコリントの信徒への手紙二12:9～10 を引用され、ご自分のご主人、妹さんを若くして亡くされた体験を生かし語られ聴衆の涙と笑いを誘い出され、私たちは心に深い感動を覚えました。
最後は「神のなさること」「私の弱いときこそ」の 2 曲を全員で合唱し安堵感に包まれた一時を持つことができました。
当日の参加者は１３６名（内聖職者８名）で席上献金は弱者やマイノリティーに寄り添う活動拠点である京都烏丸今出川のバザールカフェにお献げいたしました。

《有志グループ枠》

「山形県ブロック会」

文責　米沢聖ヨハネ教会婦人会　小貫尚子

県内、山形聖ペテロ教会、新庄聖マルコ教会、鶴岡聖公会、米沢聖ヨハネ教会の４教会の婦人会は、県ブロック会を隔年で各教会を会場に開催、祈りと交わりを深めてきました。小さな群れでは、会員の高齢化と減少により婦人会としての活動が難しくなり、ここ数年、婦人会のあり方について話し合いがもたれてきました。

講師の李司祭と涌井司祭

特に今回は大韓聖公会のオモニ会の様子をお聞きし、婦人会のあり方を考える参考にしたいと企画しました。仙台聖フランシス教会のﾄﾞﾐﾆｺ李　賛熙司祭を講師に「婦人会の課題と未来」と題して講演をお願いし、日聖婦被献日献金（有志グループ）の援助金を申請することにしました。お陰で講演会を有意義なものにできました。

2018 年 6 月 9 日(土)、交通の便を考え、山形聖ペテロ教会を会場にお願いし、男性信徒にも呼び掛けて、３教会の婦人会員を中心に 19 名が集まり、11 時から涌井康福司祭の司式説教で聖餐式を捧げました。（鶴岡聖公会からは都合で参加されませんでした。）

説教では、「聖書の中でイエス様に従い、十字架のあと、復活の時にも信仰を受け入れた初代教会の婦人の信仰は、今も女性の働きにつながっている。婦人会の課題も教会全体の問題として考え、共に集まり、どんな状況でも喜びをもって、主に感謝できるように」とのお勧めがありました。

その後、会館に移動して、おいしいお弁当。各教会の紹介もありました。

午後の李司祭の講演会では、ユーモア溢れる語り口で、大韓聖公会でのオモニ会の様子をお聞きしました。婦人がしたいことを、たとえば「聖書の学び」「聖歌を歌う会」のように「喜びをもって集まって活動する」というキーワードは、その後の話し合いの中で「これからすぐできることがある」と参加者に希望を与えるものでした。「楽しい集まり」は次の活動を呼び起こす力を持っていると実感させられました。話し合いで、これからも共に集まりたいという声が聞かれ、各婦人会のつながりと祈りが始まりました。

なお当日の礼拝信施金 15,300 円は、「仙台聖フランシス教会建築のため」と、「東北教区東日本大震災支援の働きのため」、お送りしました。

【この会のために、会場を引き受けてくださった山形聖ペテロ教会の皆様の細やかなお心遣いがあり、恵み溢れる会となりました。】

※　今年はグループ枠の申請が１件のみでした。皆さまの教会で、伝道区で、グループで何か計画をされるときにご検討ください。

九州教区女性の会から閉会礼拝後すぐに原稿をお寄せいただきました。これからも共に祈り、感謝をおささげするお仲間であり続けたいと思います。

九州教区女性の会

日本聖公会九州教区女性の会閉会感謝礼拝

２月２日被献日に九州教区女性の会閉会感謝礼拝が九州教区主教座聖堂で、武藤主教の司式でとりおこなわれました。

この感謝礼拝にあたっては、日本聖公会婦人会会長の斉藤道子さん、また、感謝箱献金事務局運営委員長の永井眞由美さんにもご参加いただきました。参加者は５９名、うち男性は６名でした。

聖　劇

礼拝の福音書朗読中に場面の聖劇がありました。それぞれの衣装を身にまとい、幼子イエスを抱きかかえ、つがいの鳩をもって・・・。朗読後アンナが聖歌 560 番「グロリア父とみ子に」と歌い、みんなで続いて立ち上がって歌うのです。

聖餐の折には牛島和美さんによる聖歌奉唱がありました。また、代祷ではそれぞれの教会が前に出て読みあげその紙を聖卓の横に準備されたルルドの泉に奉げました。

女性ならではの演出で、全員参加の心に残る礼拝でした。

祈　り

記念撮影のあとは、一階のホールで福岡聖パウロ教会の麦の会が手作りしたおいしいランチが用意されていました。

九州教区女性の会・振り返りの会では国連女性の地位委員会参加報告が画面いっぱいに映りだされた映像に、安村妙さんの報告がありました。

また、九州教区女性の会の 113 年の歴史の振り返りと分かち合いが各教会から報告されました。ホールにはその写真や記録が展示されていました。戦後の食糧難の時代それぞれが食料を持ち寄って集まり熱のこもった話し合いがなされていたことを思いました。

日聖婦会長の斉藤さんは閉会礼拝と聞いて駆けつけて頂きましたが、こんなに皆さんが元気なことに安心したと述べられ、また、今後個人会員としてつながっていく道を紹介されました。感謝箱献金ではその活用のされ方がパンフレットを配り説明されました。

最後に賛美の歌をタンバリンを打ちながらみんなで歌い、祈りをささげて閉会となりました。

閉会礼拝ではありましたが、参加者それぞれのこれからの歩みにつながり、また私たちが聖公会の女性の群れの一員であることを再認識する機会となったのではないでしょうか。

2019 年２月２日

（九州教区女性の会　閉会礼拝担当）

ぶどうの木に
各教会からの
当日の代祷を貼って。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」（ヨハネ 15：5）

懇談のひととき

♪♪

女性の司祭按手 20 年感謝プログラムを終えて

管区女性デスク　司祭　セシリア　大岡左代子

2018 年 11 月 30 日～12 月 1 日、「女性の司祭按手 20 年感謝プログラム」～新しい歌を主に向かってうたおう～がナザレ修女会および日本聖公会東京教区聖アンデレ主教座聖堂において行われました。このプログラムの実施にあたり、日本聖公会婦人会の被献日献金からも支援いただいたことを心から感謝いたします。また礼拝・交流会にも役員会よりご出席いただき本当にありがとうございました。

1998 年 12 月 12 日に日本聖公会で最初の女性の司祭按手が中部教区で行われました。マーガレット渋川良子司祭の誕生でした。その後、この 20 年の間に日本聖公会では 21 名の女性が司祭に按手され、2018 年 12 月時点では 14 名の女性の司祭がそれぞれの場で働きを担っています。また他管区からの協働者や執事、聖職候補生を含めると現職者のみで 26 名、退職者を含めると現在、女性の教役者として数えられるのは 35 名です。

感謝プログラムの１日目は、説教者であるテリー・ロビンソン司祭も含め 22 名の女性の教役者がリトリートのためにナザレ修女会（東京・三鷹）に集まりました。修女会の建物に一歩入ると、普段の忙しさや喧噪から隔てられた静かな空間です。午後 3 時、上田亜樹子司祭（ハワイ教区）の黙想指導でわたしたちは静かな沈黙の時へと招かれました。ゆっくりと息を吐きだし、息を自分の体に入れていく･･･そして自分自身とじっくりつきあい、向き合いながら日々の生活や思いに心を寄せ過ごしました。夕食前のセッションは「Angel Card」を用いた黙想。じっくりと祈り、一人ひとり輪の真ん中に置かれた小さなカードを一枚引きます。そのカードに書かれた一つの言葉（英語）について、思い巡らしをし、気持ちを分かち合いました。全員が初めて言葉を発した時間でしたが、一人ひとりが安心して自分の思いを語り、またその思いを受け止めるとても素敵な時間となりました。その後も、夕食、夜のセッションと沈黙は続きました。12 月 1 日の朝は、まだ薄暗く寒い井の頭公園で黙想。自然に触れたり、人々の生活の中での黙想は自分たちの住んでいるこの世界を感じる時間でした。リトリートの終了後、順霊母様は「このように女性の教役者がこの場で共に祈り、様々な思いを分かち合える時が来るのをずっとずっと祈り、待っていた。ようやく実現して本当にうれしいのです。」と声を震わせて語って下さり、「わたしたちは毎日毎日、日本聖公会の教役者の働きを覚えて祈っています。ことに女性の方々は女性ならではの悩みや思いがあるはずです。これからも互いに思いを分かち合える場としてこの場所を使ってください。これからもみなさんの働きを覚えて祈っています。」と励ましてくださいました。この霊母様の言葉に涙したのはわたしだけではないと思います。大きな力に励まされ、押し出され、わたしたちは感謝礼拝の場へと向かいました。

すばらしい晴天に恵まれた感謝礼拝では、主教団はじめ多くの教役者と全国からの約 200 名の会衆と共に、感謝と喜び、そして未来への希望をこめた礼拝をおささげすることができました。司式者は、按手順で一番若い京都教区の麓敦子司祭。説教者には、英国聖公会からテリー・ロビンソン司祭をお招きすることができました。テリー司祭は、「数にも数えられない女性たちの経験、疎外された者としての経験が、社会で追いやられている人々への共感につながること、何かを変えていくことはある人々にとっては恐れを伴うことであるけれど、恐れるな、との声に信頼して歩み続けましょう」と力強く語ってくださいました。感謝聖別では、参列していた司祭が全員で聖卓を囲み聖別祷を唱えました。会衆席におられた何人もの方から、「涙が出た」という声を聞きました。このような時が来るのをずっと待っていてくださった方がおられることをあらためて思う瞬間でした。また東

京教区聖歌隊がアンセムとして歌ってくださった「Jesus Walked this Lonesome Valley」（イエスはこの寂しい谷を歩いて行かれた）にも非常な励ましを与えられた思いになりました。

礼拝後の交流会では、たくさんの方が参加してくださり、温かい時間を過ごすことができました。ジェンダープロジェクト・女性デスクチームの得意技ともいうべき「コント上演」のテーマは「Back to the Future 2028→2018 」。10 年後の未来から、現在を振り返り 10 年後の人々に語る、という設定のコントは、120 年前からの様々な「女性たち」の働きを振り返りつつ、これからの「教役者にとらわれない教会ワーカー育成の必要性」、「互いにつながっていくこと」、そして、「性を超えてそれぞれの人が持っている豊かな賜物を発揮して教会の多様な働きに参与していく大切さ」がメッセージとして伝えられました。

日本聖公会婦人会はじめ全国の婦人会、教会、団体、個人のみなさまのご支援、また、主教会、管区事務所、ナザレ修女会、東京教区の心強いサポートに支えられてこのプログラムが実施できましたことに厚く御礼申し上げます。

2018 年の日本聖公会総会では、女性の司祭按手に伴う新たなガイドラインが決議され、日本聖公会祈祷書によって按手された聖職位の有効性は尊重されなければならないということが明確に謳われています。今、すでにそれぞれの地に遣わされている方々の働きはもとより、わたしたちの信仰共同体がさらに豊かなパートナーシップを築き、ジェンダーに関わらず一人ひとりの賜物を生かした多様な働きによって、神様の業に参与する器として祝福され、用いられていきますように共に祈りたいと思います。

※「女性の司祭按手 20 年」の記念誌が 3 月末には発行予定です。詳しくは、各教会に届く記念誌をぜひご覧ください。

東日本大震災被災者支援積立金　活用報告

今年も東日本大震災被災者支援積立金より「釜石支援センター望」に献金をお送りいたしました。報告は『ガリラヤのほとり　31 号 』に掲載しておりますので、ご覧ください。

お　知　ら　せ

＊ 6 月 12 日（水）～13 日（木）北関東教区　志木聖母教会を会場に「日本聖公会婦人会第 26（定期）総会」を開催いたします。宿泊は教会より徒歩７分程度のパーシモンホテルです。３月中旬になりましたら順次ご案内をいたします。遠方の方は早割を利用されるなど交通費の節約にご協力をお願い申しあげます。　**（志木聖母教会の最寄り駅は東武東上線志木駅）**

＊ 日本聖公会婦人会への入会は各教区婦人会への登録が必要です。各教区婦人会にお問い合わせください。東京教区、九州教区の教会には個人会員のお誘いを同封しております。

【編 集 後 記】

今号は被献日献金を活用された皆さまのご報告・活動の様子をお寄せいただきました。原稿をお送りくださいましたお一人お一人に感謝をいたします。

神学生からのご報告には、神さまからの招きによって神学院へ入学され、その学びの深さを感じました。共同生活において自分を見つめ、他の人の話を聴き、受け入れ協働する道、守られた学びの場から知らない土地へ派遣されることへの備え、尊い学びの上に毎日の祈りに覚えなければと思い顧みました。

神学院・神学館での生活に神さまの大いなる恵み、助けをお祈りいたします。

また、全国に聖職志願者が与えられますように切に祈ります。

各教区婦人会のお働きに一人二人と増し加えられますように。

今号もそれぞれの地での様子を伺うことができました。地域にあった望まれる活動を続けることができますように。

昨年１２月の「女性の司祭按手２０年記念」感謝礼拝と交流会は女性デスク大岡司祭様からのご報告の通り、感動を覚えました。

また、九州教区の女性信徒の皆さまの新たな歩みの上に、神さまのお導きが豊かにありますようにお祈りいたします。

毎号、皆さまからの喜びを感じるお言葉に勇気をいただき力づけられます。

寒さ厳しい季節、春を待ちながら...

「神の恵みによって今日のわたしがあるのです。
そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、
わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。
しかし、働いたのは、実はわたしではなく、
わたしと共にある神の恵みなのです。」（コリントⅠ　15：10）

パウロの言葉に学び、役員会の務めを進めてまいります。

www.nskk.org/fujinkai/